

No.150

中部 教区通信

編集 日本基督教団中部教区
教区通信編集委員会
発行人 加藤 幹夫
発行所 〒461-0009
名古屋市東区久屋町8の6
日本基督教団中部教区事務所
電話 (052) 971-8497
E m a i l ckyo@quartz.ocn.ne.jp
振替口座 00830-7-52037
Homepage <http://uccj-chubu.com>



いつも喜んでいなさい、絶えず祈りなさい

テサロニケの信徒への手紙一 5:16-17

豊田教会 ^{えづれ}江連 実

皆さんはどうでしょうか。いつも喜んでいますか？
私たちは、いつも喜んでいられるわけにはいかないのです。

「喜ぶ」と翻訳されている言葉ですが、パウロは「カイロー動詞」というギリシャ語を使っています。この「カイロー」という言葉、実は聖書の中で、とても重要な言葉なのです。

前の讃美歌で「安かれ我が心よ」という曲がありましたが、「安かれ」、今の聖書では「平安あれ」。これも「カイロー」です。ユダが裏切って、主イエスを捕まえた時、イエスに近寄り「先生、こんばんは」と言って接吻しましたが、あの「こんばんは」も「カイロー」です。つまり挨拶の言葉です。この「カイロー」、ヘブル語の「シャローム」に相当する言葉なのです。だとすると、「喜んでいなさい」は、ただ嬉しくて「わーいわーい」ではないのです。「いつも挨拶をいなさい」とも読める言葉です。たかが挨拶と馬鹿にしてはいけません。聖書の中で挨拶は、人間関係の基本です。「シャローム」と挨拶しあうこと。「主なる神様の平安が、あなたにありますように」。

挨拶とは、互いに主にある平安を祈りあうことなのです。挨拶できないということは、神に祈れない。こいつのことを神に祈れない。ということです。そこから悲劇が生まれていくのです。（創世記37:4 兄たちは、父がどの兄弟よりもヨセフをかわいがっているを見て、ヨセフを憎み、穏やかに話すこともできなかつた。「穏やかに話す」が「シャローム」です。）

聖書によれば、人間関係の基本は、互いに挨拶すること。互いに祈りあうこと。互いの平安を神に祈ることなのです。いつも喜んでいなさいとは、いつも祈りあいなさいなのです。深い言葉でしょう。どんなに苦しい時にも、悲しい時にも、悲惨な状況でも、互いに祈りあいなさい。祝福し合いなさい。これが、愛しあ

うことの基本なのです。

さらにカイローは「平和を祈る」と訳せます。「いつも互いの平安を平和を求めなさい」とも読むことが出来るのです。我々が生きている、この世界は、罪と苦しみに満ちています。テレビを見ても、新聞を読んでも、犯罪や戦争や悲劇で一杯です。だからこそ、いつも平和を求めなさい。平安を祈りあいなさい。自分だけ喜んでいられるという教えではないのです。さらに言いますと、「喜ぶ」「喜びの声をあげる」。

皆さんは喜ぶ時に、どんな声を出しますでしょうか。「やったー」「わーい」などですね。聖書で「喜びの声」は、神に感謝する声であり、礼拝する讃美の歌になるのです。

詩編100篇「全地よ、主に向かって喜びの叫びをあげよ」礼拝の始めの詩編です。「いつも喜んでいなさい」これは「いつも礼拝しなさい」とも読むことが出来るのです。神に感謝し、人に祝福を祈る。これこそ「シャローム」であり「カイロー」です。いつも感謝の喜びの声を上げて、神様を礼拝しなさい。つまり、神を愛せよ。互いに平安を祈り、平和を求めながら共に生きて行きなさい。つまり、隣人を愛せよ。この二つの意味が込められた言葉と言えるのです。神を愛し、互いに愛しあいなさい。これが主イエス・キリストの教えです。主イエス・キリストに示された愛の教えを守るには、まずシャロームを祈ることなのです。

小さなことかも知れませんが、日々のお会いと、日常の人間関係を大切にしなければ、平和も平安もないのです。そして愛することのできない我々は、主イエスの命令によってでなければ、敵を愛そうとも赦そうとも思うことが出来ないのです。

主よ、我らを導き給え。

日本基督教団の教師として歩む 教師研修会報告

教師部 吉川進

2023年11月20日(月)14時～21日(火)12時の日程で、4年ぶりの一泊二日の研修会を実施。三重県桑名市ニューハートピア温泉ホテル長島を会場として44名が参加し、講師の菅原力先生(大阪のぞみ教会牧師、教団常議員)の講演に耳を傾けた。

菅原先生の、講演テーマにかける問いは先ず、日本基督教団とはどのような教会なのか、という点に集約された。そして、30余派が合同して生まれた教団成立の歴史から今日に至るまでの歩みを受けとめる必要があると同時に、教団を一つ教会として成り立たせる「公同教会の理念」と生命的力とを受容し、そこに参与していくことが何より大事だ、との目標設定がなされた。

初日の講演で、講師ご自身が、中部教区の教会で信仰を育てられ、教区教会のつながりが豊かであることから、出席者との間に親しみをもって語り始められた。

まず日本基督教団の成立の経過と、赤木義光著「日本基督教団の諸問題」の内容を通して教団の抱えている問題性について説明された。特に、1970年からの教団紛争の経過で、神学校の推薦の議論から端を発して「教師論」が激しく問題視されたこと、すなわち教団の教師の資格とは何か、二重教職の必要性はあるか、などの議論が延々と続くことになった経過が詳しく確認された。

二日目の講演で、永く続いた「教師論」について、2011年7月の教団常議員会において教師養成制度検討会議の設置が要請され、教団の教師養成の全体を振り返り、教団の教師を立てるにふさわしい制度のあるべき姿を4年にわたって検討し、答申した経過が説明され、この中で、講師ご自身が各神学校との意見交換をする場で、本来、教団から神学校へ教師養成の内容を示し、依頼してこなかったことを反省として受けとめた、と語られた。

こうして、教師検定委員会、信仰職制委員会及び教師委員会の各委員長・書記に教団副議長が加わる構成の教師養成制度検討委員会が、日本基督教団信仰告白と教憲による教師論をまとめ、2020年10月の常議員

会に報告した。今回、そこに描かれる教師像の核心である日本基督教団教憲の前文と第一条について、集中的にその神髄を読み取るべきことを、詳しくレビューされた。前文第一段が、神がキリストを通して召してくださる聖なる公同の教会を定義し、第二段で、その教会はキリストの福音を宣べ伝えて神の救いのご計画を実現する志しを持つのだ、とその信仰的方向性を明確に、熱く語られた。そして、第三段において、30余派の、本来それぞれ教義・教理の歴史と伝統を有した教会が、1941年に聖なる一致が与えられて公同教会の交わりに入ったことは、教会が信仰を継承する生き残りの準備をしていた経過において、聖霊の働きが貫いた意義を宣言している、と説き奨められた。

休憩後に、出席の練達の教師から若い教師まで熱心な質問と感想が出された。そこには、旧教派のアイデンティティと教団における一致との二階建て論の確認や、また、牧会の現場での教会の多様性についての肯定的、否定的の両面の意見もあったが、いずれも教師論が言語化されたことでどこからも議論が始められることについて、前向きに考える意見であったのは、研修の収穫であったと感謝したい。次に検討されている教規における教師論も期待したい。

なお、研修会初日の開会礼拝で、保護猫との慈愛に富む生活に触れながら、メッセージを語った輪島教会新藤^{つよし}豪牧師が、24年元旦の地震で被災されました。教会員を励ましながら牧会を続ける先生のお働きには、多くの困難がおりと思いますが、上よりの励ましと祝福が豊かなれと祈ります。



以前勤めていたキリスト教学校で、ある日生徒が「すごいことがあったから聞いて！」と嬉しそうに走り寄ってきた。聞けば、あと1点入れば試合に勝てる、という局面で主の祈りを祈り、見事勝利した、というのだ。この生徒は当時クリスチャンではなかった。でも自分の力ではどうにもならないというときに、なお自分でもうにかしようとして躍起になるのではなく、「天にましますわれらの父よ」と祈りに向かった姿を、私も見習わなければならぬと思った。世には、人の力ではどうにもならないことで溢れている。ふだんはそれを忘れていても、日常の中でたびたび人の無力さを思い知らされる。しかし絶望しなくてもよいことも知っている。「天にましますわれらの父よ」と祈り委ねる全能の主が私たちの神なのだから。

福野伝道所・福光教会

森野真理

るはのり

活かされています 伝道活動援助費 夏のお楽しみ会・合同礼拝 城之橋教会CS

城之橋教会は、ふだんの礼拝出席が10数名の小さな教会です。

教会学校は4年前、前任牧師の時に始まり、現在は月に1回の礼拝に、教会員の子どもである2人のきょうだい(小学2年・5年)が出席しています。併設されている認定こども園城之橋幼稚園がありますが、教会学校礼拝にはまだなかなか結びついていません。こどもたちが教会に来るには、おとなの協力も必要です。

それで、教会で子どもたちもおとなも一緒に楽しむことをしたいと、8月最後の日曜日に「夏のお楽しみ会・聖書ビンゴ大会」を企画しました。

事前に、幼稚園でお楽しみ会の案内・申込み用紙を配布してもらい、参加希望人数を確認して、軽食やゲームの景品を準備しました。

残念ながら、ふだんから教会学校に出席している2人のきょうだいは、前日から体調を崩して参加できませんでしたが、幼稚園から親子2組と、合同礼拝の説教者として招いた牧師の家族の参加がありました。当



日礼拝に出席したほとんどの教会員も、一緒に聖書ビンゴをして、楽しむことができました。

後日幼稚園で、参加した2人のこどもたちが「ビンゴがすごく楽しかった!」とお友だちや先生に話していたそうです。また、1人のこどもの家族がクリスマス燭火礼拝に来てくれました。教会でこどももおとなも一緒に楽しめる時、教会がはじめての家族も楽しめる時を持つことができ、本当に感謝でした。

牧師 柳本秀良

「障がい者と教会」交流集会報告

中部教区「障がい者と教会」委員会が主催する交流集会「生きづらさと教会～共に生きるために～」を2024年1月27日(土)に名古屋中央教会で開催しました。今回は視覚障がい、聴覚障がいをお持ちの方々に障がいによる「いきづらさ」の体験をお話いただき、教会での取り組みをお聞きしました。発題をしてくださったのは、江連紀子さん(豊田教会員)、田中文宏教師(名古屋桜山教会)、浅野美登里さん(名古屋中村教会)、そして鳴海教会の取り組みを辻順子教師がお話くださいました。

発題者の自己紹介により、障がいはそれぞれ人によって違うことを知らされました。目が見えないと言っても一部分が見える方もおられます。皆さんが点字を読めるのではありません。耳が聞こえなくても子どもの頃からの訓練によってしゃべることができる方もおられ、皆さんが手話ができるということではないそうです。加えて補聴器は雑音でうるさく感じる方がおられ、活用が難しいとのことでした。ですから障がいとしてひとくくりにせずそれぞれの方にあった支援が必要です。特に現在は視覚障がいの方は音声パソコンの活用、聴覚障がいの方には、音声を聞き取って文字化する機械が普及してきて、科学技術の発達によって多様な支援方法が開発されています。

障がいを持つ方には、「迷惑になってはいけない」と

いう思いを持たれて、自己主張をされないまま孤独に陥ってしまう方もおられます。そんな中からできることをやっていこうと思い、教会での奉仕に取り組むようになったらまわりから声をかけてくれるようになり、一緒に活動することが増えるようになった方がいました。障がいを持つ人も積極的に発信することが大切でそれを受け止める相互理解が求められます。

田中文宏教師は、マルコによる福音書2章の、イエスさまが屋根から友人によって吊り下げられた中風の人をいやしたエピソードを引用されました。イエスさまは人に迷惑をかけてもよい、あきらめてしまっはいけない、ということをお話していること、中風の人の友人の信仰を重んじたことに表される、キリストの体としての信仰共同体の信仰の大切さをお話くださいました。

辻順子教師は新会堂により聞こえやすい音響効果を考えたシステムを導入されたことをご紹介くださり、骨伝導などの新しい補聴器をお持ちになって体験することが出来ました。ですが機械がどんなに発達しても、使うのは人間です。機械を活用しつつ、お互いに配慮しあうことの大切さを思わされました。

当日、37名の方々がご出席くださいました。これからも、だれも区別されることなくキリストの体を造り上げる者とされるように、様々な障がいの理解を深める交流集会を続けて行きたいと思います。

「障がい者と教会」委員会 和田芳子

富山地区

富山地区会長 小堀康彦

1月1日に起きた能登半島地震は、2007年の地震より桁違いに大きなものでした。幸いなことに富山地区にある8教会・1伝道所では建物への被害、教会員の家・人的被害の報告は受けていません。ただ、新学期を控えていた子ども園では、備品が壊れたり、様々な物が散乱し、大変でした。能登半島の現状の報告を聞く度に、心が痛くなります。復興に向けて力を合わせたいと思っています。

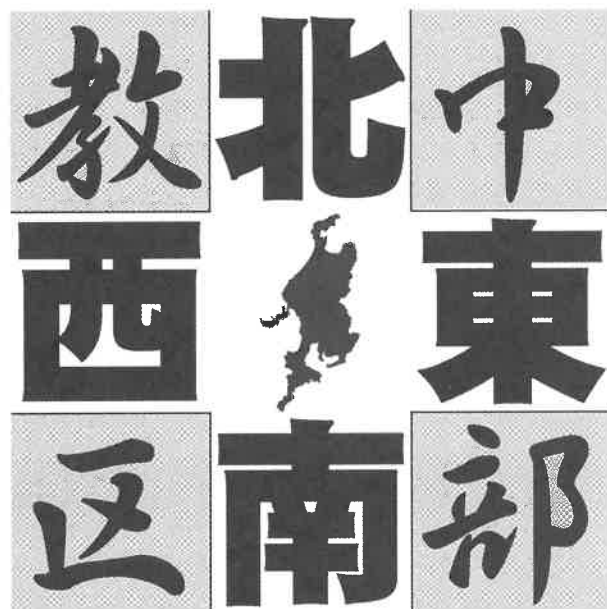
福野伝道所では念願であった礼拝堂建設が3月に着工し、7月には完成予定となります。福野伝道所と福野青葉幼稚園は長く同じ建物を用いていましたが、建物の老朽化に伴い福野青葉幼稚園は南砺市の再開発による広い土地に移転しました。今回、その駐車場の一部を教会が取得し、そこに福野伝道所の礼拝堂が建ちます。嬉しいことです。教会と幼稚園は一つの神様の御業ですから。

石川地区

石川地区会長 松島保真

13教会、1伝道所がある石川地区には、30年以上地域に根ざして伝道しているベテランから、神学校を卒業後まだ数年のフレッシュな方まで、老若男女の個性豊かな牧師たちがいて、それぞれの賜物を生かしながら、北陸唯一のキリスト教学校である北陸学院と共に、主の福音を宣べ伝えています。

2020年以来、コロナ禍によって諸教会や地区内の活動が停滞していましたが、昨年あたりから信徒大会や交換講壇などの地区活動も少しずつ再開され、顔と顔を合わせて共に集い、語り合い祈り合える恵みを改めて噛み締めています。そんな矢先、2024年1月1日（月）夕刻、能登沖を震源とする最大震度7の地震があり、奥能登にある輪島教会の会堂は倒壊し、牧師館も大きな被害を受け、新藤^{つよし}豪牧師は震災直後から信徒数名と避難所での生活を余儀なくされました。2007年に発生した能登半島地震の際に再建した七尾教会、羽咋教会、富来伝道所は今のところ大きな被害はないものの、関連施設のこども園に被害が出ています。石川地区としては、これまで以上に互いの教会を覚えて祈り支え合い、会堂等の再建のために息の長い支援をしてまいりたいと思います。今後とも祈りとお支えをお願いいたします。



中部教区東西南北は広くてなかなか会う機会のない他地区のことを知り、祈り合うために設けているページです。地区会長の方々に最近の地区の様子や課題などを、短いスペースですがご紹介いただいています。

福井地区

福井地区会長 佐藤誠司

昨年度、無牧だった城之橋教会が柳本秀良教師を迎え、福井地区は七つの教会に七人の教会担任教師が揃いました。福井地区は中部教区で最も小規模な地区です。教会と教会の距離が近く、隣の教会で起こっていることが他人事ではありません。無牧の教会を皆で支え、牧師就任式を皆で祝います。「各部分が互いに配慮し合っています」というパウロの言葉が胸に浮かびます。

この交わりの中で、如鷲教会が創立100周年を迎えました。信徒大会を丸岡教会の佐藤徹教師を講師に立てて行うことが出来ました。これまで信徒大会は外部から講師を招いて行っていましたが、自前で講師を立てることが出来るようになったのです。これは案外大きなことだと思います。

この原稿の執筆中に、大きな地震が起こりました。能登の諸教会が心配です。2007年の能登地震のときもそうでしたが、地方小都市にとって教会の再建は大きな意味を持ちます。教区と教区諸教会が「互いに配慮し合って」教会再建にあたりたいと願っています。

愛知東地区

愛知東地区会長 江連実

愛知東地区には、14の教会・伝道所があります。岡崎教会、刈谷教会、豊橋教会、豊橋中部教会、半田教会、安城教会、世真留教会、豊田教会、豊橋東田教会、西尾教会、碧南教会、岡崎茨坪伝道所、田原吉胡伝道所、知立伝道所です。それぞれの教会・伝道所に課題がありますが、教師会に集まり、自由に話をしています。

ここ数年の話題は、コロナ禍の中で、礼拝をどのように行っているか。賛美歌や聖餐式の持ち方。愛餐会・食事会などの持ち方について語り合いました。

もう一つは、いつ来るとも知れぬ、南海トラフ地震への備えについてです。教会の耐震調査の必要性について、連絡方法について、いざという時のための備えについて話し合いました。能登半島地震が起こり、改めて地震の恐ろしさと、被害の大きさを感じました。亡くなった方々、ご遺族の方々への、神様よりの愛と癒しと慰めをお祈りいたします。先日の地区教師会で改めて、教区の震災マニュアルを読み合わせ、中部教区の一員として被災された方々によりそい歩むことを確認いたしました。

愛知西地区

愛知西地区会長 草地大作

愛知西地区は、35の教会・伝道所、シルバーホームまきば、金城学院中高、名古屋中高、名古屋学院大が立地する大所帯です。このたび地区長となり、改めて地区の働きの多さに驚いています。特に2023年度は、コロナ禍による制限が緩和され以前の活気が取り戻される時期と重なり、休会していた集会も再開され、地区の活気が戻って来ています。

一方で、いわゆる人口密集地域に所在する教会・伝道所が多い現実がありつつも、それぞれの共同体が直面する課題は多く、教師不在の教会・伝道所も複数に上っています。代務や兼務、教務教師の応援などの体制を構築し、主日礼拝をささげられるよう、それぞれの共同体が精一杯の賜物を持ち寄り支え合っています。

教会・伝道所数は多いですが、特に名古屋市内では、隣りの共同体との物理的距離が比較的近いことも地区の特色です。近隣に立地する教会・伝道所が、共同で地域の宣教活動を担っていく未来を描くことも、今後の展望の一つではないだろうかと考えています。

愛知西地区を覚え、お祈りいただければ幸いです。

岐阜地区

岐阜地区会長 西川幸作

能登半島地震被災地の皆様に神様のお守りがありますようにお祈りいたします。

いつも岐阜地区各団体（教会、関係学校、関係施設）のためにお祈り、お支えくださりありがとうございます。岐阜地区の今年度の主なトピックは、コロナ禍ゆえに延期していた地区サマーキャンプと信徒大会を開催したことです。

サマーキャンプは8月9～10日で白川町にある蘇原教会にて計画を立てていましたが台風接近により急遽、各務原教会に変更して行いました。制限はありましたが、礼拝、夕食（バーベキュー）、お風呂（近くの温泉）、ボードゲーム遊びなどを楽しくしました。参加者は24名（内スタッフ14名）でした。

信徒大会は11月23日に各務原教会にて行いました。「われらの教会、われらの地区～たがいに知り合おう～」とのテーマで、講演形式でなく各団体からの紹介をメインにしました。それぞれ、写真などを含んだスライドや動画を用いて発表していただき、創立からの歴史や現在の姿を互いに知ることができました。参加者は51名でした。

岐阜地区はこれからも共に喜びつつ歩んでまいります。

三重地区

三重地区会長 蜂屋博寿

「三重には何にも無いよね。空港も、新幹線も、コストコも…」そう言われたことがあります。確かに山はあり、海はあり自然は豊かです。風光明媚な土地です。でも空港も新幹線もありません。コストコは近々出来るようですが…。北勢の桑名教会から南勢の尾鷲教会まで149キロ。南北に長い県です。しかし三重地区17教会には、その距離を越えて主によって与えられている豊かな交わりがあります。コロナ禍後、久しぶりに集まって開催された今年度の地区信徒修養会、婦人部修養会には、それぞれ100名、80名近くが集い、会堂に賛美の音が響き渡りました。人口減少が激しい紀勢ブロックでは毎年一度、大台めぐみ、紀伊長島、尾鷲の3つの教会が合同で礼拝を献げています。それぞれの教会が福音によって結ばれ、祈り合う交わりが形成されています。地区内教会の教勢、財政は厳しい状況にあり、大きな課題を抱えている教会もあります。しかし、だからこそ、「無い」ものを数えるのではなく、今「ある」恵みを共有し、祈り合いながら主によって教会に託された伝道の務めを果たして行きたいと願っています。されながら、『敬神愛人』の実現に向けて日々あたふたしております。どうぞよろしく願いいたします。

震災前の能登を訪問 社会部現地研修

社会部では、2023年9月4～5日に能登を訪問し、現地研修を行いました。関係施設の職務や教会員の葬儀のために3名が参加できませんでしたが委員4名が参加し、能登半島北部を一周し、2007年の能登半島地震の被災地や志賀原発を見学しました。さらに2020年12月以来、震度1以上の有感地震が約400回、そして2022年6月に震度6弱、2023年5月の震度6強と大きな揺れと被害を受けた珠洲市を訪問し、珠洲市在住の原頼子姉（輪島教会員）の案内で地震の爪痕を残す被災地域を見学しました。

現地研修日程は次の通りで、名古屋からの参加者は9時出発で、中部教区の広さを体感することになりました。

《4日》 (14:00) 羽咋教会集合・出発 (14:30) 志賀原発外観見学 (15:00) 富来伝道所見学 (15:20) 輪島市門前町（能登半島地震の震源地）の復興住宅見学 (16:00) 輪島教会で新藤豪牧師と意見交換・祈り (17:00) 民宿海辺で委員会・宿泊

《5日》 (9:00) 輪島出発 (10:00) 珠洲市見附島で原頼子姉（輪島教会員）と合流し原姉の案内で市内各所の被害地域を見学 (11:30) 原姉と祈りをあわせ、珠洲を出発 (13:10) 羽咋教会訪問・祈り (13:30) 解散

能登半島の突端にある珠洲市は、金沢から車で約二時

間半。原姉は夫輝雄兄と共に1時間かけて約50キロ離れた輪島教会に通っています。珠洲市では5月の地震で倒壊した建物は撤去され更地になっていましたが、至る所で崖が崩れ、復旧が進んでいないところも多く、幹線道路から一步入ると陥没箇所がそのままになっている道路も各所で見られました。また、その後の地震で傾いている建物もありました。群発地震によってさらに過疎化が進んでいます。

原姉は、「回数は減ったものの地鳴りを伴う地震に恐怖を感じることは続いています。一方で地震に対する慣れもあって、あらためて次の備えをしなければならないと思っています。多くの人の祈りに夫婦で支えられ感謝しています」と話しておられました。

どうぞ、被災地域に暮らす人のためにお祈りください。そしてまた、私たちも、いつ起こるか分からない災害に備えて、それぞれができる備えを心がけたいと思います。

この原稿を書いているときに能登半島地震が発生しました。輪島市、珠洲市など奥能登地域に大きな被害が出、輪島教会は全壊しました。どうか、被災者のために、教会の復興のためにお祈りください。

社会部 勇文人

震災後の能登を訪問 教区議長 加藤幹夫

今回の能登半島地震は2007年の時よりもかなり規模が大きく、被害も広範囲に及んでいます。教区としては4日に特別委員会として現地委員会を設置し、刻々と変わる情報の収集や支援をしています。

教区議長としては、道路状況が確保できたところで、1月17日に七尾教会と羽咋教会、18日に輪島教会への訪問ができ、各教師に教師互助会からのお見舞金をお渡ししました。能越自動車道に入ると被害が見えてきました。七尾の町へ入ると被害が大きくなりました。七尾教会から海へ続く「一本杉通り」は全壊の家屋が目立ちました。町は断水が続き、井戸水を利用していますが、シャワーやトイレなどに不便が続いているようでした。会堂はひび割れ、隣接する幼稚園は、亀裂や傾きがありました。長期の断水が予想される中、5つの幼稚園の責任を持っておられる釜土牧師をはじめ、教会員の方々の精神的疲労が重なっている様子でした。

羽咋教会は大きな被害はありませんでしたが、町のあちこちには、道路のひび割れや家屋の倒壊がありました。18日、羽咋の内城牧師と岩城長老、富山二番町の勇牧師の4人で輪島へ。途中、陥没や崩落があり、通常より約3倍の時間がかかりました。輪島の町はひどい状況で、教会は全壊、牧師館も使用できない「危険」の札。教会の近くには焼失した朝市があり、新藤牧師はじめ教会員

の数名がおられる避難所も歩いてすぐでした。ただ、2次避難として金沢の避難所や親類家族のもとへ行かれ、避難所を離れる人も多くおられます。新藤牧師と共に祈りの時を持つことができました。

被災教会はいずれも長い年月、地域に愛され、地道に伝道してきた教会です。復興に至るまで、どのような支援ができるかを思い巡らしながら、取り組んでゆきたいと思っています。



写真

右七尾にて
下輪島にて



福井神明教会

ここでの宣教

各務原教会

私が福井神明教会に着任したのは、9年前の2015年4月。その1年前に、この教会は主任担任教師が辞任し、1年間の無牧を楠本史郎教師を代務者に迎えて過ごす中、役員会は少しずつ教会的な判断力を養っていました。とはいえ、役員会はいまだ迷いの中にありました。疲弊があり、センターチャーチとしての自覚が萎えていました。私が四国教区の徳島分区にいた頃、徳島市内の教会にセンターチャーチの自覚が十分でなく、それが分区全体の交わり形成の上に影を落としていたのを思い出しました。

センターチャーチの自覚というのは、大教会意識のことではありません。地域(地区)全体の交わり形成のために地域の諸教会に仕えていく、そのための覚悟のことです。この自覚が、当時の教会には十分ではなかったのです。この自覚を取り戻すには、与えられた恵みに気づくことが大切です。私たちの教会に与えられた恵みはもちろん、福井地区や北陸の諸教会に与えられた恵みに少しずつ目が開かれていきました。福井には地区の交わりだけでなく、教派を超えたキリスト教連盟やキリスト教墓地管理委員会の交わりがあります。また地区を超えた北陸神学会や北陸伝道会中高生キャンプの交わりがあります。

そして、次に示されたのが、隣接する栄冠幼稚園との交わりです。2020年7月10日(金)の夜遅く、3人の幼稚園教師が教会を訪ねて助けを求めました。詳細は書けませんが、3か月をかけて、この園は教会との健やかな関係を取り戻しました。園を取り巻く状況は今もって厳しいものがありますが、キリスト教幼稚園として真っ当な歩みが始まったことは、教会にとってはもちろん、地域にとっても大きな喜びです。

牧師 佐藤誠司

各務原教会は1962年6月、4名の信徒による「キリスト教蘇原集會——聖書に学ぶ夕べ」という自発的な集會からその歩みが始まりました。「当初は、全くの超教派的集團であり、また教会形成を志向する活動でもなかった」と教会二十年史には記されています。しかし、集會を重ね徐々に出席者が増えていく中で教会形成の幻が示され、1964年に教団の認可を受け「日本基督教団各務原伝道所」が発足しました。

その後60年に渡って各務原の地で宣教活動が続けられてきましたが、発足当初に見えた「信徒の自発的な姿勢」はこの教会に与えられた賜物として今日にまで継承されていると感じます。積極的な礼拝奉仕はもちろんのこと、礼拝以外の集會も盛んに行われてきました。一緒に手芸をする「手づくりの会」や「料理教室」など、教会でのコミュニティ形成を信徒が自発的に担ってきたことは各務原教会の創立以来のスピリットによるものといえます。毎月1回、壮年会メンバーによる手打ちうどんが礼拝後に振る舞われる通称「壮麵会」は教会メンバーみんなの楽しみとなっています。

しかし、私が着任した2020年以降は新型コロナウイルスの感染拡大によっていずれの活動も大幅に制限されました。また教会全体の高齢化もあいまって、かつてほどの活発ではないのが現状です。少しずつ再開された集會もありますが、以前通りのことを守ると同時にやはり新しい試みへの道も示されていると感じます。地域に根差す教会として、創立以来の信徒の自発性を大切に継承していきながら教会の宣教が豊かに広がっていくよう、祈りを合わせていきたいと思ひます。

牧師 川上侑



第33回部落解放セミナー報告

毎年、中部教区内各地区をまわって部落解放セミナーを開催していましたが、コロナ禍に入り3年間それができないでいました。今年度は久々に石川地区で開催ができたことに感謝いたします。まず開会礼拝では、石川元町教会会堂をお借りして石川地区内や福井地区から来て下さった方たちと共に礼拝をささげることができました。礼拝説教ではマルコによる福音書3章1～6節から、存在を軽んじられている人に命の尊厳を取り戻すために主体的に働かれたイエスの姿を受け取りました。

礼拝をささげた後フレンドパーク石川に移動し、吉田樹さん（部落解放同盟北陸事務所事務局長）より石川県内における部落問題の特徴や現状についてお話をいただきました。石川県の被差別部落の特徴として、各部落が小さく、活動を団結していくことの難しさがあるとのことでした。また近年、実施したアンケート調査から、部落の人と自分の子どもが結婚したいと言ったときにどうするか「わからない」と答えた方がパーセントを越え

ている現状がわかり、まだまだ部落差別が根付いていることが浮き彫りになっています。このことは私の浅い学びからも想わされることです。部落差別は普段、話題にもあまり出ないので、もうすでに無いかのように感じられてしまうのですが、実はそれぞれの人の中に隠れていたり、突然現れてくるものなのだと思います。だから自分に問い、学び続けていくことが大切なのだと思います。

セミナー開催後に開かれた委員会では、教区の財政縮小の動きもあり、各地区での持ち回り開催を隔年にすることも検討する必要があるかもしれないとの意見も出ています。今後どのような形になるかはわかりませんが、できる形で差別からの解放のために学びの時をもち続けていきたいです。新しい方にもぜひ、興味をもって参加していただきたいです！

委員 安達正樹

【常置委員会報告】

8月以降の常置委員会の主な決定事項（9月～1月）

◇教会に関する件

- ・教団特別財産登記申請1件

◇教団・教区に関する件

- ・2024年度の教団伝道資金の申請に関する件
- ・2023年度宣教方策会議出席者教区推薦の件

◇助合伝道会計に関する件

- ・2023年度退職一時金積立援助案に関する件
- ・2024年度謝儀援助基準案に関する件
- ・2023年度伝道活動援助費に関する件

◇財務に関する件

- ・2023年度教区クリスマス献金の目標額に関する件
- ・2023年度宗教教誨師活動支援献金の目標額に関する件
- ・2023年度助け合い関係費に関する件

◇2024年度春季教師検定試験(正教師)志願者の教区推薦に関する件

◇2024年度春季教師検定試験(補教師)志願者の教区推薦に関する件

◇大規模災害発生時の中部教区としての初期・中期対応に関する件

◇能登半島地震対策に関する件

◇特別伝道費援助申請に関する件

【教区通信編集委員会より】

◎能登半島地震については教区HPもご覧ください。日本基督教団中部教区 ←

◎教区通信は1961年10月の第1号から通算150号を迎えました。今後も教区諸教会を祈りで繋げますように！



【教区よりお知らせ】

◇結婚祝 池田慎平（津示路教会）

◇お花料 主の慰めをお祈りします

有田恵子夫人（鳥羽教会）、林正史（無任所教師）

◇お見舞い ご快復をお祈りします

加藤幹夫（阿漕教会）、清水与志雄（田瀬教会）

◇能登半島地震お見舞い

七尾教会、羽咋教会、輪島教会

◇中部教区定期総会

第74回中部教区定期総会は5月21日(火)、22日(水)に金沢教会で行われます。

◇教区への提出書類

教区への提出書類を3月初めに各教会へ送付しています。提出期日をお守りの上、お早目の提出をお願いいたします。

◇「中部教区規則および諸規約集」のご案内

第73回中部教区総会において「教区規則変更に関する件」が可決されたことを機に、新しい規則集を作成し、2023年12月1日に発行いたしました。以前(2015年)の規則集との主な違いは次の3点です。①第18条の教会記録審査に関して、「ただし、教区総会で報告ができない場合は常置委員会に報告する」を加えました。②表紙にも規則・規約等の種類を明記しました。③諸規約の中に、「中部教区教師互助会内規」を加えました。今回、誤字脱字も修正加筆し、2023年10月の常置委員会において確認いたしました。昨年末に教会・伝道所用と教師用に1冊ずつ、お送りしましたが予備も十分にありますので必要な方は教区事務所に遠慮なくお申し出ください。